

いふじん



仁淀川町
広報

10

2007年
月号 No.27



秋晴れの日、待ちに待った稲刈りです（藤ノ野）

日

黄

和

金

主な 内容

- 2.....敬老会・100歳おめでとうございます
- 3.....金婚おめでとうございます
- 4.....加枝の里山に響くヤギの声
- 5.....上川渡カラオケクラブ
- 6・7.....地震に備える
- 8~10.....平成18年度一般会計歳出決算
- 14.....宇宙電波観測アンテナ完成

『ご長寿お祝い申し上げます』

町内各地区でにぎやかに敬老会

九月十七日の「敬老の日」を中心に、長年にわたり社会に貢献してこられたお年寄りに感謝し、ご長寿をお祝いしようと、町内各地区で敬老会が催されました。

敬老の日は、多年にわたり、社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝うことを趣旨とした国民の祝日です。町内には七十歳以上の方が、二千

八百九人、そのうち百歳以上の方は十七人（平成十九年八月末現在）おられます。その多くの方が仕事や趣味に、元気に生きがいを持って生活されています。

各地区では、それぞれ趣向を凝らした敬老会が行われました。そんな賑やかな敬老会の風景の一部を切り取ってみました。



赤上げて、白上げて！みなさんお上手です



マジシャン登場に真剣な眼差し



舞台ではどんな出し物が？
舞台上に釘付けです



いつまでもお元気で

おめでとう百歳

中内秋秀さん

中内秋秀さん（相能）が百歳を迎えられました。誕生日を前にした八月二十四日には、藤崎富士登町長が自宅を訪れ、長寿を祝いました。

中内さんは明治四十年八月二十五日生まれ。今年三月に寝たきりになってしまいました

が、それまでは何でも一人ででき、電動車イスで国道沿いの景色を眺めに行くのを楽しみとしていました。九十四歳まで軽トラックの運転もされていたとのこと。

ベッドの上での生活となつてしまいましたが、食欲もあり、よく食べられるということで、大変血色も良く、しっかりとした口調で話もできます。

藤崎町長から「おめでとうございます」と声をかけられると「ありがとうございます。おかげさまで長生きさせてもらっています」と答えています。

同居している息子の康博さんは、歌が大変お上手で、八月十六日に行われた「歌つて

走ってキャラバンバン仁淀大会」で優勝されました。中内さんも歌が大好きで、特に康博さんの歌を聞くのが楽しみであり、この優勝についても大変喜んでいたのであります。

「まだまだ長生きして頑張らんといかんね」との問いかけに、につこりと笑つてうなずいた中内さん。どうぞお元気で。



町長と記念撮影

苦楽を共に助け合って50年 金婚おめでとうございます



第五十回金婚夫婦祝福式典（主催・高知新聞社、RKC高知放送ほか）が九月一日、高知市の三翠園で行われ、町からも十五組のご夫婦が出席されました。

金婚式典も今年は五十回目の節目にあたり、会場的大型スクリーンに、五十年の歴史を振り返る写真や映像が映し出されると、二人で歩んできた道のりを重ね合わせるかのように、感慨深げに見入っていました。半世紀という長い歲月、苦楽を共に助け合ってこられたご夫婦。ダイヤモンド婚（六十年）を目指し、これからもお元気で、いつまでもお幸せでありますようにお祈りします。

式典出席者（五十音順）

大倉 正・清恵（大渡）
大野 淳幸・武子（桂）
大原 幸榮・美恵子（藤ノ野）
大原 純男・浪江（藤ノ野）
片岡 榮・タキ子（久喜）
片岡 隆・千恵子（正ノ石）
片岡常太郎・美子（五味）
楠本 良誓・昭子（湯ノ川下）
齋藤 辰雄・佐登美（打置）
西田 豊茂・菊江（西谷）
橋本 和康・松子（下土居）
林 友一・幸美（川口）
山崎 豊勝・ユキノ（桜）
吉岡幸四郎・紗智子（上土居第三）
吉村 一敏・妙子（霧ノ窪）

— 金婚を迎えられた読者からのお便り —

広報を愛読いただいている、兵庫県加古川市にお住まいの川村邦博さんより、お便りをいただきましたのでご紹介します。

川村さんは、旧池川町の出身で、少年期にはメジロを追い、青年期にはギター片手にナイスボール楽団と称し各イベントをかけずり回っておられたそうです。川村さんご夫婦も今年金婚式を迎えられました。「懐かしい故郷の想いが脳裏に浮かんできます。今年金婚を迎えられました皆様に心よりお祝い申し上げます」とのことです。



金婚を迎えられた川村さんご夫婦

加枝の里山に響くヤギの声

昔は仁淀川町でも多くの家でヤギを飼っており、その乳を貴重なタンパク源として利用していましたが、今はほとんど見ることができません。しかし、近年では粗放的飼育に耐えうる点等が再評価され、ヤギ乳を加工したチーズ等の乳製品の販売など地域おこしの一つとして注目されています。

ヤギを飼っているのは、山田静香さん（加枝）。以前から知り合いであった、中四国農政局高瀬農地保全事業所の吾郷所長から、「ヤギを飼ってみませんか。荒れた畑の雑草は食べてくれるし、ヤギの

乳を使ってチーズを作ったりもできますよ」という話を聞き、飼ってみようと思われたそうです。吾郷所長の紹介で、春野町でヤギの飼育をされている方から生後一カ月のオス、メス一頭ずつをわけていただきました。

山田静香さんとめーちゃん



子ヤギたちが加枝にやってきたのは六月。ヤギを飼うのは始めての山田さん。餌はどういったものかいいのだろうか？などいろいろ苦労されました。一カ月が過ぎようとしたとき、オスの子ヤギの体調が急変し、手当てのいかなく死んでしまいました。しばらく、姿の見えなくなったオスを心配して、メスの子ヤギは鳴いていたそうです。メスの子ヤギは元気に育



ち、家族みんなに可愛がられています。メー、メーと鳴くので名前はめーちゃん。山田さんが「めーよ」と呼ぶと、遠くにいても駆け寄ってくるそうです。「いつも畑に行く時は一緒。畑の雑草をよう食べてくれます。まだ子どもなので私に甘えてきます。私が孫たちと遊んでいるときも顔を話される山田さん。これからのことを聞くと「乳が搾れるようになったら、まず飲んでみたいですね」と山田さん。年齢を聞くと七十歳を少し過ぎたとのこと。とてもそんな年に見えない元気なお姿で、今日もめーちゃんと仲良く畑仕事に出かけて行かれました。

遊学の里 家族で楽しむ夏休みの森

8月25～26日、吾川スカイパーク（上名野川）で「遊学の里 家族で親しむ夏休みの森 inAGAWA」が開催され、4家族14人の親子が参加しました。

初日は上名野川の原生林を歩きながら「森林教室」、長坂山では間伐や枝打ちなど「森の仕事体験」で汗を流し、夕食は親子でバーベキューをしながら下名野川地区の生産者と一緒につくったこんにゃくやアメゴの塩焼きなど山の幸を満喫し、夜は恒例の「ドラム缶風呂」や「天体観測」を堪能しました。

2日目は早朝「第3回カブトムシ相撲吾川場所」で盛り上がりました。その後「木工教室」で竹細工などを作り、昼食では流しソーメンを楽しみました。

閉校式では一人一人に修了証書が渡され、今年も7人のかわいい「森の達人」が生まれました。帰る際には「また来年も来たい」などのうれしい声が聞かれました。



はっけよい のこったのこった

「楽しく、仲良く、元気よく」

上川渡カラオケクラブ

夜の七時過ぎ、上川渡の集会所から、楽しい歌声が聞こえてきます。歌声の主は、上川渡カラオケクラブ（掛水春光代表）のメンバーの皆さん。このクラブは、地区の方々によって平成十七年六月に結成されました。メンバーの人数は、現在十八名。第一第三土曜日の夜七時から九時三十分まで、上川渡の集会所でカラオケと踊りを楽しんでおられます。カラオケの機材は、メンバーの方がそれぞれ持ち寄って設置されたそうです。



熱唱する最高齢の掛水須美恵さん。お歳は八十五歳です！

「楽しく、仲良く、元気よく、を合言葉に、カラオケを歌い、それに合わせて踊りもします。大きな声を出して歌うことや、踊ることによってストレス発散ができ、またよい運動にもなり健康の面ですごくいい。また、みんなで楽しく話してもでき、地区全体に元気が出てくる」と掛水春光さんと神原信孝さんが、歌の合間に笑顔で話してくれました。



カラオケは楽しいよ～!!

高知県溶接技術コンクールで第1位に入賞



表彰状とカップを手にする
竹森雅孝さん

平成19年度高知県溶接技術コンクールで、金光鉄工(株)にお勤めの竹森雅孝さん（百川内）が、被覆アーク溶接の部で第1位に入賞されました。

平成19年6月2日に競技会、7月9日に総合審査会が行われ、見事第1位に入賞が決まりました。8月3日には高知会館（高知市）において、表彰式が開催されました。竹森さんは、溶接の仕事を始められて約20年になり、今回の受賞について「感無量です」と感慨深げに話されていました。

このコンクールは、溶接技術向上を目的とし、技量の高さを示すシンボルとして(社)日本溶接協会高知県支部、(協)高知県鉄構工業会などの協賛で実施されており、10月28日に群馬県で開催される全国大会に、県の代表として竹森さんが出場されます。全国大会でのご活躍を期待しています。

— 虫干し —

秋葉まつりの練り奉納組の本村、霧ノ窪、沢渡で、8月から9月にかけて祭りの衣装や道具類の虫干しが行われました。

もう来年の秋葉まつりに向けて準備が進められています。

秋葉神社の秋季大祭が10月11日（木）午前10時から行われます。神事の後、都の太鼓踊りが奉納されます。また、地元グループの出店もでますので、ぜひ遊びにお越しください。



— 八朔(はっさく) —

9月11日は旧暦の8月1日にあたり、上川渡・戸立集落では上川渡の大師堂に集まり、長い間にわたるお接待の慰労と、秋の豊作を祈願しました。以前は、農家は仕事を休み、餅をついて神を祭る風習があったそうです。

